

今週の株式相場見通し

* 日経平均 20,000~21,000円 TOPIX 1,450~1,520
 * 期待材料 財政政策拡大 各国の金融緩和 自動車販売支援策の導入
 * 不安材料 ブレグジット 景気後退 香港情勢 アルゼンチン情勢 地政学的リスク 米中貿易戦争
 激しさを増す米中貿易問題、EUからの強硬離脱に固執するジョンソン英首相、イランの核合意においてさらなる後退懸念などが、今週の株式市場でも不安材料視されるものと思われる。一方で、強気の見方も報じられている。米大手証券のJPモルガンは、テクニカル指標の改善、ECBの緩和再開、米の大幅利下げの可能性から、株に戻る時期は近い、年末までさらに上昇へのレポートを発表した。また、ブルームバーグは08年の金融危機前に住宅ローン証券の値下がり予想したヘッジファンド投資家マイケル・バーリ氏の見解を報じている。バーリ氏は、世界的にパッシブ投資がバブル状態にあり大手企業に資金が集中する一方、中小型のバリュー株が見落とされていることから投資機会があるとし、自身のファンドでも投資を行っている旨のコメントをしている。筆者としては、日本においても割安感の強い銘柄が増えているように思う。引き続きリスク要因の多い状況だが、好配当利回りの中で、安定的な配当政策を持ち、好財務、低PBRなバリュー株については注目していきたい。来週はドイツでフランクフルト国際自動車ショー、日本及び米国で電動自動車関連の展示会が開催される。基本合意された日米貿易交渉では、米国による自動車輸入関税の引き上げ、輸出総量規制といった懸念事項は盛り込まれなかった。インドや中国では自動車販売優遇策が発表されており、両国が進める金融緩和策と合わせて需要回復に寄与することが期待される。自動車及び自動車電動化関連株の動向に特に注目している。(8月29日現在、多功 毅)

今週の予定

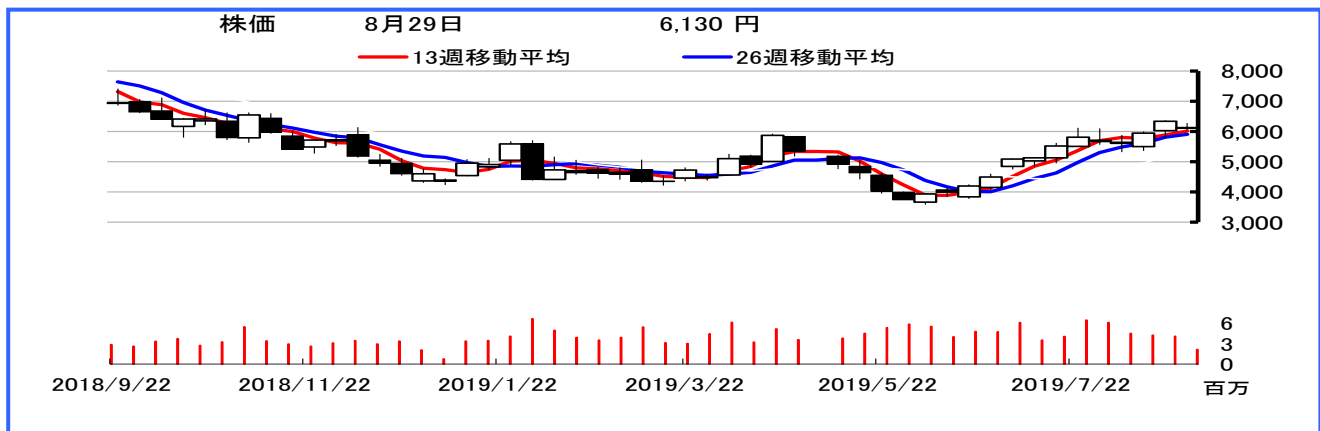
	国内	海外
9/2 (月)	4-6月期四半期法人企業統計調査(8:50) 伊藤園(2593)1Q決算	[中]8月財新製造業PMI(10:45) [米]休場(労働者の日)
3(火)	日韓知事会議(~5日) グルメ&ダイニングスタイルショー(~6日)	[英]議会再開 [米]8月ISM製造業景況指数(23:00)
4(水)	8月サービス業PMI(9:30) コンピュータエンターテインメントデベロッパーズカンファレンス2019(~6日) 日本比較免疫学会(~6日)	[中]8月財新サービス業PMI(10:45) [米]7月貿易収支(21:30) [露]東方経済フォーラム(~6日) [米]国際低侵襲手術週間(~7日)
5(木)	積水ハウス(1928)2Q決算 アルチザネットワークス(6778)本決算 日本認知科学会(~7日) 国際フロンティア産業メッセ2019(~6日)	[イラン]交渉進展がない場合に核合意履行を縮小させるとする期限 [米]8月ADP雇用統計(21:15) [米]8月ISM非製造業景況指数(23:00)
6(金)	「テレワーク・デイズ」終了日 7月毎月勤労統計(8:30) 麒麟HD(2503)がファンケル(4921)の発行済み株式の30.3%を取得	[独]国際コンシューマ・エレクトロニクス展(~11日) [スイス]パウエルFRB議長 経済討論 [米]8月雇用統計(21:30)
7(土)	自民党二階派夏期研修会(~8日)	[スペイン]世界肺癌学会(~10日)
8(日)	岩手県知事選挙投開票 大相撲秋場所(~22日)	[中]8月貿易収支 [露]統一地方選挙

出所はロイター、ブルームバーグ、新聞各紙等より、時刻は日本時間(予定)

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、宜しくお願い致します。

今週の参考銘柄

SCREEN HD (7735) 東証1部



	18年3月期 (百万円) 前年比		19年3月期 (百万円) 前年比		20年3月期(予) (百万円) 前年比		株価(8/29)	6,130 円
売上高	339,368	13.0%	364,234	7.3%	324,000	-11.0%	業種	電気機器
営業利益	42,725	26.7%	29,645	-30.6%	25,000	-15.7%	売買単位	100 株
経常利益	41,329	29.1%	29,279	-29.2%	22,500	-23.2%	PER(予想)	16.8 倍
当期純利益	28,507	18.0%	18,059	-36.7%	17,000	-5.9%	PBR(実績)	1.7 倍
EPS(円)	608.6		387.1		364.3		ROE(実績)	10.3 %
配当金(円)	110.0		97.0		97.0		配当利回り(予想)	1.6 %
							担当	松本 直志

出所：業績に関する数値は決算短信、決算説明会資料より

1868年に京都で創業した石版印刷業の石田旭山印刷所から、1943年に写真製版用ガラススクリーンの研究部門が独立する形で設立。表面処理技術、直接描画技術、画像処理技術をコア技術に半導体製造装置事業(SPE)、印刷機器などグラフィックアーツ機器事業(GA)、FPD製造装置事業(FT)、プリント基板関連機器事業(PE)を展開。19年3月期の事業別売上高比率はSPEが69.3%、FTが13.5%、GAが13.2%、PEが3.4%、その他0.6%。主力の半導体製造装置では、複数枚のウエハーを一度に薬液などに浸して洗浄するバッチ式洗浄装置で世界シェア1位(シェア64%)、薬液をスプレーしてウエハーを1枚ずつ洗浄する枚葉式洗浄装置でも世界シェア1位(シェア40%)。

4-6月期決算は前年同期比19.7%減収、営業損益は51億円の黒字から44億円の赤字へ転落。メモリ向け半導体製造装置と印刷機器の販売減、FPD製造装置で好採算案件の期ズレが発生したことが影響した。印刷機器、FPD製造装置の苦戦により上期、通期計画を下方修正。

メモリ向け装置の売上が前年同期比66.0%減となったことで、SPEは12.6%減収、小幅赤字に転落。ただ、微細化投資が順調なファウンドリー(半導体受託生産業者)向け売上は、前年同期比2.7倍に拡大。受注もファウンドリー向けがけん引し前年同期比18.6%増、前四半期比で17.0%増の600億円に拡大。7-9月期も600億円程度の高水準な受注獲得が見込まれている。足元のメモリ向け投資は落ち込んでいるものの、中国などで5G(第5世代移動通信システム)の商用化が始まる20年には回復に向かうものと思われ、来期に向けて業績は改善基調をたどることが期待される。

説明会より

銘柄 (コード) 市場 株価(8/29)	コメント
旭化成 (3407) 東証1部 949.1円	1Q決算は、住宅、ヘルスケアが堅調に推移したものの、MMA、ポリエチレン、ポリスチレン市況の下落、ナフサクラッカーの臨時修繕、不織布の需要減退によって営業利益で65億円の減益着地。2Qにかけて臨時修繕の影響剥落、住宅、ヘルスケアの堅調推移を見込むものの、中国経済の減速、自動車及びスマホ関連市場が低調であることを踏まえて、上期の営業利益計画を30億円減額し945億円に下方修正。(多功 毅)
ファンケル (4921) 東証1部 2,513円	4-6月期決算は前年同期比5.7%増収、2.5%営業減益。化粧品とインバウンド売上が好調で、会社計画を小幅上振れ着地。化粧品は前年同期比8.2%増収。洗顔パウダーが会社想定比約2倍の売行きとなったことや、美白エイジングケア、スキンケアアップジェルクリーム、スキンケア商品などが拡大。インバウンド売上は前年同期比15%増収となり過去最高の四半期売上を達成。日焼け止めやマイルドクレンジングオイル、ホワイトニングキットが好調で、化粧品が前年同期比31%増収となり、インバウンド売上拡大をけん引している。(松本 直志)
IBJ (6071) 東証1部 1,180円	1-6月期決算は前年同期比55.7%増収、63.9%営業増益。令和婚ブームも追い風に直営結婚相談所、結婚相談所連盟事業が拡大。5-6月に大量入会が発生し、直営結婚相談所は前年同期比77.8%増収、24.7%増益。コンシェルジュのスキルアップやAIのサポートなどにより、ひと月当たり成婚数が拡大。結婚相談所連盟事業も新規出店が増え、開業加盟金収入が前年同期比54.9%増、加盟店の増加に伴い月額システム利用料は21.5%増と順調に推移している。(松本 直志)
京セラ (6971) 東証1部 6,247円	1Q決算は、部品系事業が自動車、半導体、スマホ向け需要が落ち込んだ影響を受けたことに加えて、償却費の増加、60周年行事に伴う一過性費用の発生(約55億円)もあり、前年同期比0.7%減収、39.0%営業減益。1Qは、部品系はやや苦戦も、通信端末、ソーラー、有機が想定より良く、売上高は計画線、利益は若干、上振れとしている。2Q以降も、半導体の回復は期初想定より後ズレしそうだとするものの、ソーラーの改善などによって期初計画を据え置き。(多功 毅)
三菱商事 (8058) 東証1部 2,538.0円	1Q決算は、絶好調であった前1Q比純利益で432億円の減益。特に、生産コスト上昇や一般炭権益売却のあった金属、三菱自動車に加えてアジアの自動車事業の落ち込む自動車・モビリティ、デリバティブ評価損や石化市況が下落する石油・石化、ノルウェーでの赤潮発生や鮭鱒市況下落の影響を受けた食品が特に苦戦。期初時点では通期上振れを想定していたが、1Q決算を受けて未達になるとは思わないが、大幅上振れの見込みは低下したと説明している。(多功 毅)
SCSK (9719) 東証1部 5,200円	製造業、流通業のIT投資が好調に推移し、4-6月期決算は前年同期比13.5%増収、23.7%営業増益となり、過去最高の業績を更新。業務効率化、省力化など人手不足対応や戦略投資、ERP・CRMなど既存システムの更新需要が増加し、システム開発売上は前年同期比14.9%増収。昨年の通信業向け大型案件の反動減があり、システム開発の受注は前年同期比1.8%増と小幅増にとどまったが、製造業、流通業の受注は堅調に推移している。(松本 直志)

いつもあなたのそばで 頼れる金融機関です

やまわ

■ ■ ■ 山和証券店舗網 ■ ■ ■

本店営業部	(03) 3668-5412	〒103-0026	中央区日本橋兜町 1-8
金町支店	(03) 3600-6681	〒125-0041	葛飾区東金町 1-22-9
高円寺支店	(03) 3311-1171	〒166-0003	杉並区高円寺南 3-58-25
大岡山支店	(03) 5754-5523	〒145-0062	大田区北千束 3-28-1 パークホームズ大岡山ラヴィアンコート 1F
巣鴨支店	(03) 3918-6311	〒170-0002	豊島区巣鴨 3-33-2
上板橋支店	(03) 3935-0311	〒174-0071	板橋区常盤台 4-22-12
深川支店	(03) 5600-7891	〒135-0005	江東区高橋 11-1
茂原支店	(0475) 25-1151	〒297-0023	茂原市千代田町 1-6 茂原サンヴェルプラザ 1F



○金融商品取引法に基づく表示事項

◇商号：山和証券株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第190号
加入協会：日本証券業協会

◇ご投資にかかる手数料の概要およびリスクについて

- ・国内上場株式等を購入する場合は、約定代金に対して最大 1.1772%(ただし約定代金 230,000円以下の場合は最大 2,700円)の委託手数料をいただきます。
- ・国内上場株式等は、価格の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、発行会社の信用状況の悪化等により投資元本を割り込むおそれがあります。商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので当該商品の契約締結前交付書面をよくお読みください。

○山和証券免責事項

- ・本アナリストレポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券の売買あるいは特定の証券取引の勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断と責任でおねがいします。
- ・本アナリストレポートの全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

発行 山和証券調査室